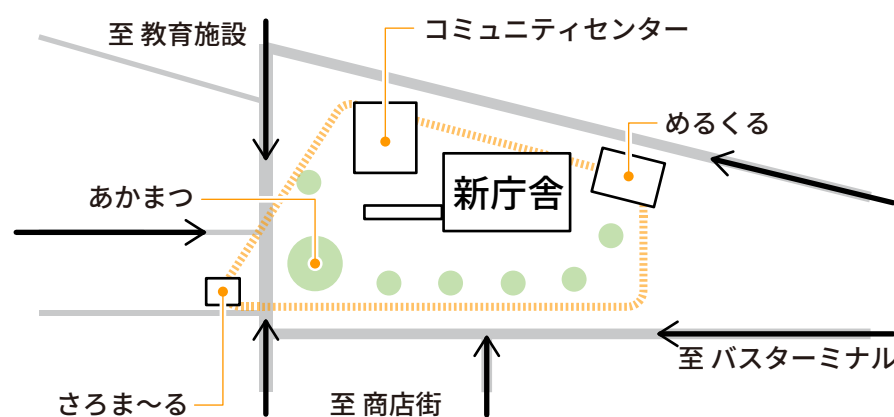


1. 新しいまちの結節点

佐呂間のまちに由緒ある大木・あかまつを活かし、豊かな自然と共に生きるこの地にふさわしいシンボルをつくります。

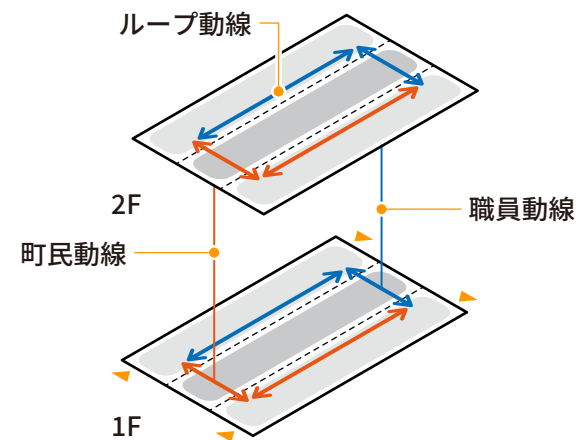
歩行者、車、バスの流れをつなぎ、南側の商店街や公共施設、北側の教育施設とつながる交通ネットワークの新たな拠点を整備します。



2. 周辺施設とつながるコンパクトな庁舎

コミュニティセンターやさろま〜ると連携することで町民や職員の利便性を高め、この場所全体がまちの中核機能を持つ新しい顔となります。

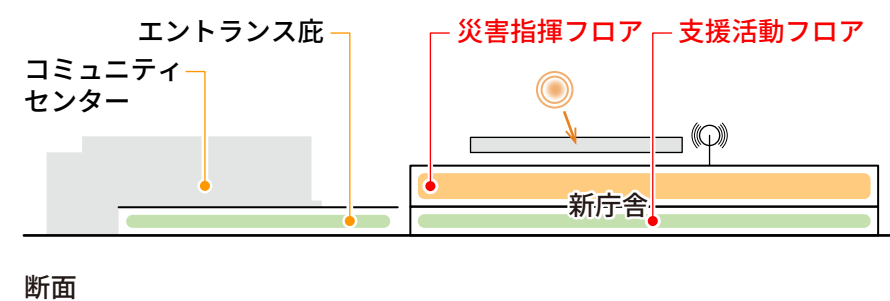
佐呂間の気候風土を理解し、コンパクトなつくり・シンプルなくみで消費エネルギーの小さな庁舎をつくります。



3. どんなときでも頼れる町民の居場所

日常は町民に開放された居場所であり、週末やお祭りのイベントにも対応し、さらに災害時には安全な防災拠点と一時避難場所に迅速に転換します。

まちのにぎわいや魅力を発信する空間を建物内外につくり、完成した後も未永く愛され使われる庁舎をめざします。



■基本構想における新庁舎建設の基本理念

すべての町民に開かれた「安全・安心」「協働」「環境」を重視した

『すべての人にやさしいまちづくりの拠点』

●めざす方向① 町民にやさしく親しまれる庁舎

子どもからお年寄りまで誰もが利用しやすい空間を設け、ユニバーサルデザインを考慮した町民が気軽に立ち寄ることができる庁舎の建設をめざします。

●めざす方向② 町民の安全・安心を支える庁舎

地震や台風、洪水などの自然災害の発生に備え、防災拠点施設としての機能を有するとともに、耐震性や耐火性に優れた強固な庁舎の建設をめざします。

●めざす方向③ まちづくりと連携した庁舎

他の公共施設や町民の生活と連携した活力あるまちづくりの形成に寄与する庁舎の建設をめざします。

●めざす方向④ 環境に配慮した庁舎

脱炭素社会の実現に寄与するための環境への配慮と、省エネルギー技術の導入により、経済性に優れた庁舎の建設をめざします。

●めざす方向⑤ 町民が誇りを持てる庁舎

まちのシンボリックな存在として、「佐呂間町らしさ」を表現した、町民が誇れる庁舎の建設をめざします。

配置計画

□歩いてまわれるまちづくりの拠点整備

- ・計画敷地周辺には旧国鉄の線路跡地とみられるフットパスが現存し、旧駅舎周辺は交通公園として整備されています。新庁舎整備に合わせ、現在のまちの主要な交通手段であるふれあいバスを新庁舎へと引込み、町民が集まる新たな交通の結節点をつくります。
- ・隣接するコミュニティセンターをはじめ、さろま〜るやめるくる等の既存施設と歩行者ネットワークでつながる計画とします。歩車分離を徹底し、お互いの機能を補填し合う一体的な整備を行います。

□2つの顔をもつ庁舎アプローチ

- ・新庁舎を敷地中央に配置し、既存の敷地出入口でもある西側と、商店街へとつながる南側の2つの主要なアプローチを設けます。まちの中核エリアとして、来庁者にとってわかりやすく、イベントにも使いやすい公共空間を整備します。
- ・西側アプローチには来庁者を出迎えるエントランス庇を設けます。庇下はバスの停留所のほか、駐輪場、思いやり駐車場などさまざまな機能を持ち、雨風をしのぎながら来庁者の利便性を高めます。

□わかりやすく安全なバス動線・駐車場

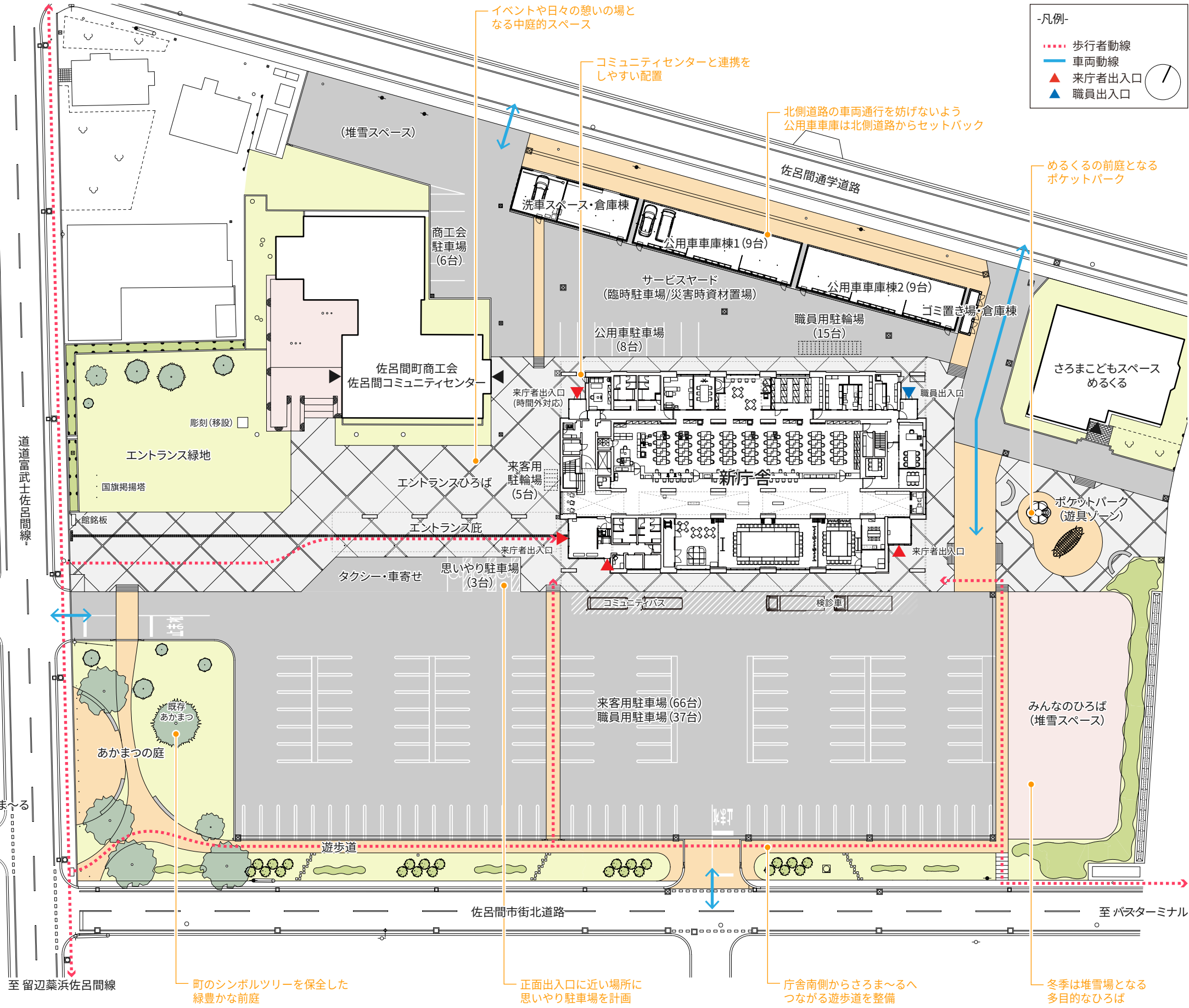
- ・来客及び職員用の駐車場を敷地南側に集約配置します。バスが通り抜けできる安全な通路幅を確保し、障害や死角のない安全な駐車帯を整備します。
- ・公用車用の駐車場、車庫は敷地北側に設けます。新庁舎に隣接し利便性を高めます。

□由緒あるあかまつをシンボルとした外構緑化

- ・まちの歴史を受け継ぐあかまつを未来へのシンボルとして保存し、町民が誇りを持てる緑豊かなまちづくりを推進します。
- ・北西民地側の緩衝帯となるエントランス緑地をはじめ、南側の町道沿いには町民の散歩道となる遊歩道を整備し、まちの景観づくりを牽引します。

□周辺施設と連携する災害復旧拠点

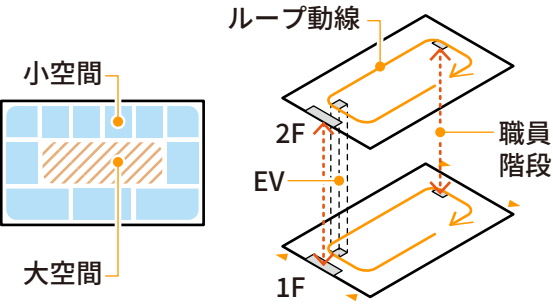
- ・災害発生時における町内外との連携を停滞させないよう、3方の道路からアクセスできる計画とします。
- ・指定避難所でもあるコミュニティセンターと連携が図りやすいよう近接した出入口を設けます。新庁舎と囲む中庭状のエントランスひろばは、平常時は町民の憩いの場所として、災害時には救護支援活動スペースへと転換します。



平面計画(1階)

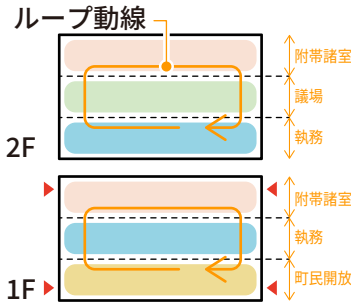
□平面計画の基本方針

- 外壁面積の小さい矩形プランを積層した総 2 階建てとします。建物中央には大空間及び吹抜けを設け、コンパクトで親密な建築をつくります。
- 共用通路をループ状にまとめて小空間をつなぎます。2 階段のうち一方を町民用、もう一方を職員用とすることで、わかりやすい動線とします。
- 1 階では南側に町民開放エリア、中央に執務空間、北側にバックヤードを配置する階層状のゾーニングとし、誰もが利用しやすい庁舎とします。



□町民にとって利用しやすい 1 階平面

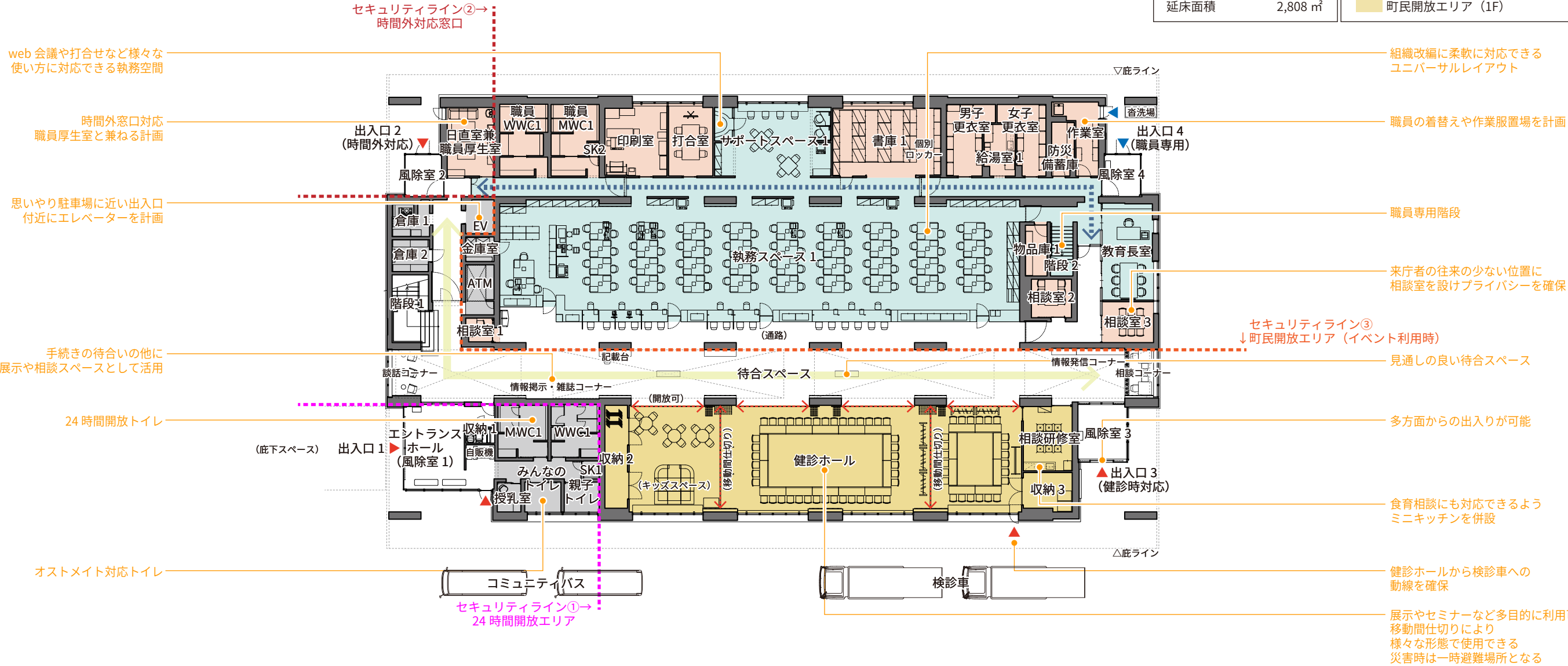
- 町民利用の窓口機能を全て 1 階に集約したワンフロアサービスとします。プライバシーに配慮した複数のカウンターを一字に並べ、各種手続きが迅速かつ安心して行える環境を整備します。
- 建物中央を東西に貫くように待合スペースを設けます。上部が吹抜けの開放的な空間とし、新庁舎の主要な動線及び待合機能だけでなく、町民向けの情報掲示や展示空間など多目的に活用できます。
- 南面には各種健診や一時避難場所にもなる健診ホールを設けます。利用形態に応じて 3 室に分割でき、平常時は一般開放のキッズスペースや職員の会議室など多機能に使い分けが可能です。
- エントランスホール及び町民トイレは 24 時間開放とします。バス待合のほか、授乳室や親子トイレを整備し、誰もが利用しやすい庁舎とします。



□職員にとって働きやすい執務環境

- 建物北東に職員専用出入口を設けます。外勤作業やゴミ捨てなど日々の諸活動に細やかに対応できる動線計画とします。
- 執務スペースは各課の連携が図りやすい一体空間とし、ユニバーサルレイアウトを導入したコンパクトで機能的な執務環境とします。
- web 会議をはじめとするさまざまな働き方を支援するサポートスペースや印刷室、書庫など執務関連諸室を機能的に並べます。
- 時間外窓口を建物北西部に設けます。開庁時はコミュニティセンターへと通ずる出入口を兼用し、合理的なセキュリティ計画とします。

- 面積表 -		- 凡例 -	
1 階床面積	1,407 m ²	執務関係諸室	▲ 来庁者出入口
2 階床面積	1,307 m ²	議会関係諸室	▲ 職員出入口
R 階床面積	94 m ²	附帯諸室	
延床面積	2,808 m ²	共用・管理	
		町民開放エリア (1F)	

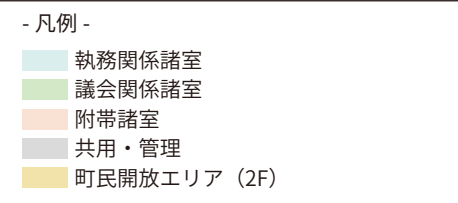


■1 階平面図 (S=1/300)

- 眺望の良い2階共用部には、議場のホワイエを兼ねた町民開放スペース「サロマサロン」を設けます。
- 誰でも利用できるコーヒー自販機の設置を検討し、ベンチやカウンター席など多様な家具が設けられたくつろぎのカフェスペースとします。
- 町立図書館と連携した図書コーナーの設置、無線 wifi の整備を行い、勉強やコワーキングが可能なエリアとします。

- 議会機能は 2 階に集約し、議会事務局を中心とした機能的なレイアウトとします。
- 2 階中央に配置した議場へは、町民、議員、職員の各動線が交錯することなく出入りできる計画とします。
- 議場は平土間とし、災害時の一時避難場所となるほか、開庁時の会議利用や町民向けのイベント利用など、多目的な利用を想定したつくりとします。

- ・執行部及び専門部署、会議応接室などを南面にまとめ、明るく機能的な執務環境を整えます。
- ・議場に隣接した大会議室は、平常時は議会や各種委員会の会議室として活用でき、緊急時には災害対策本部として機能転換します。
- ・各種設備機器、発電機、サーバーなどは浸水対策として 2 階及び屋上に配置し、いかなる災害においても滞りなく稼働する庁舎とします。

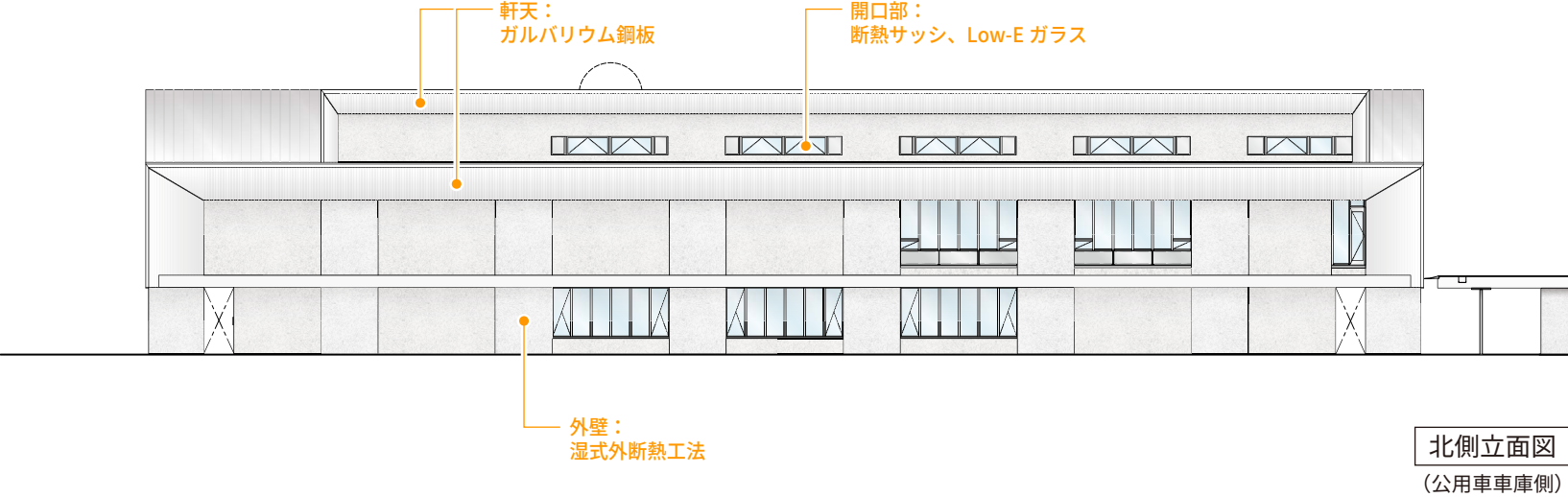
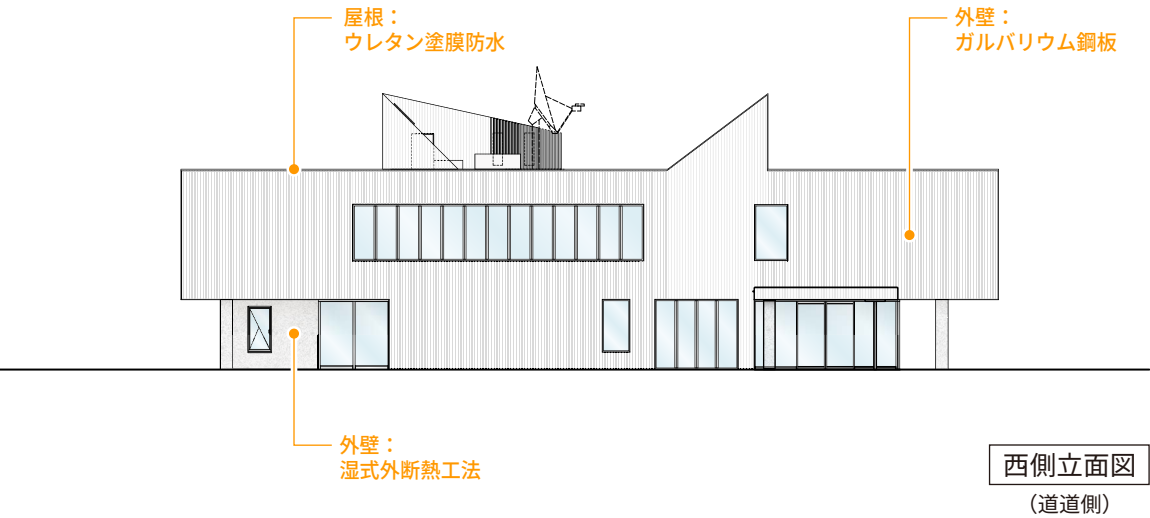
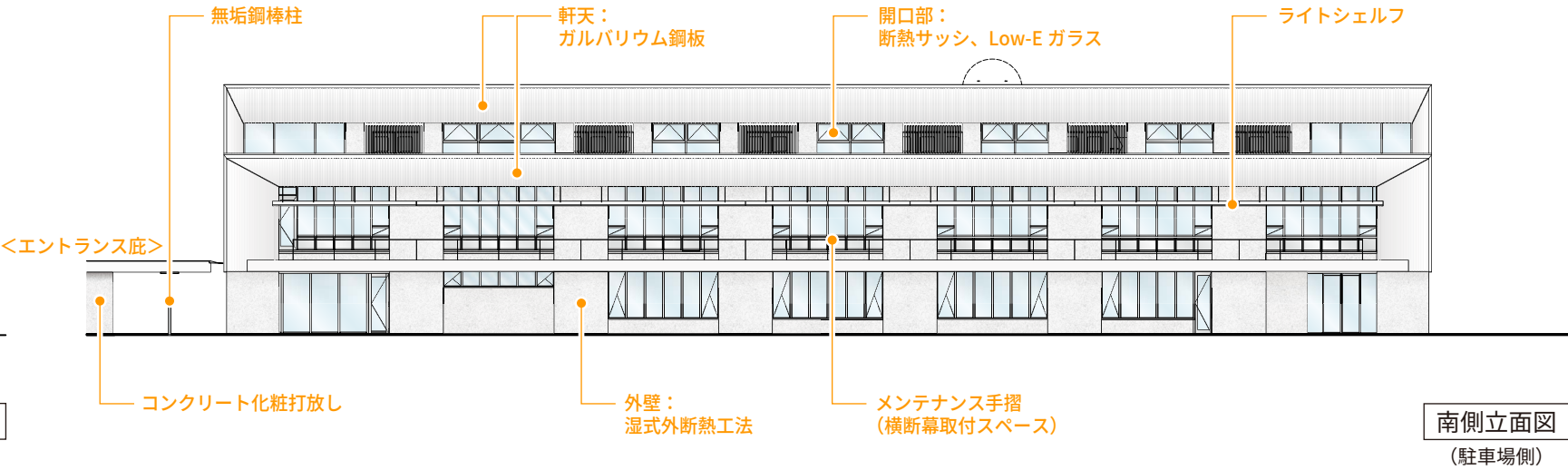
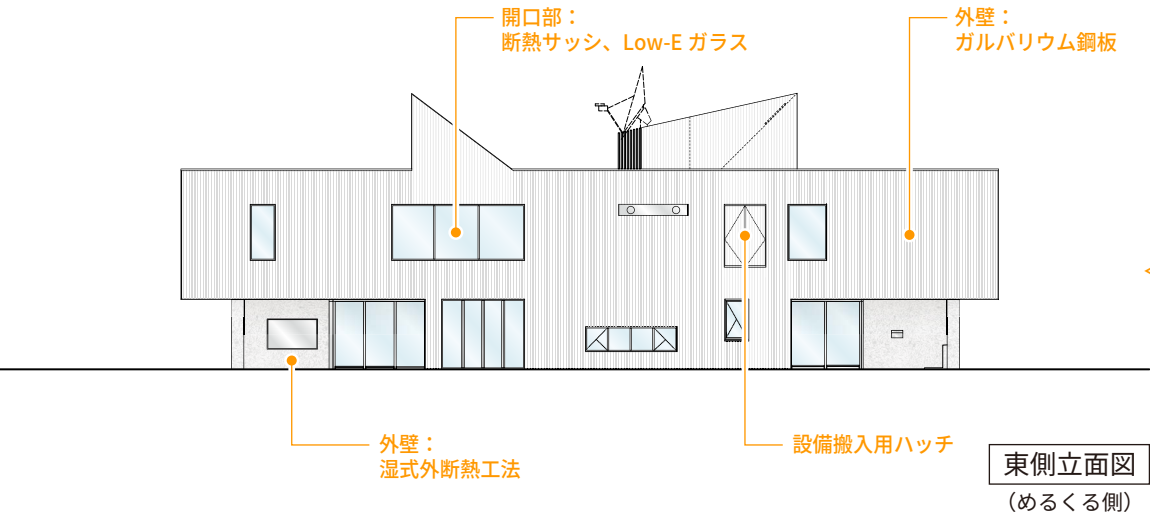


□実用性に根差した外観デザイン

- 四方からアプローチする平面計画に合わせて、裏表のない開かれた外観デザインとします。
- 南北面にはメンテナンスバルコニーを兼ねた庇を設け、水平ラインが強調されたシンプルで力強い佇まいをつくります。
- 庇は、外壁面の保護機能に加え、日射を制御する環境装置となり環境負荷低減に寄与します。
- 東西面には内部の機能に応じて開口を設け、南北面と対比的で柔らかな表情をつくります。
- 西側のメインアプローチにはエントランス庇を設け、悪天候時にも来庁者を優しく出迎えます。

□地域性に配慮した外装材

- 寒冷地である北海道において長く親しまれ、使われてきた材料、工法を選定します。
- 板金技術や左官技術など、職人の手仕事を感じられ、素材そのものを活かしたデザインとします。
- 屋根の傾斜面や雨がかりとなる東西の外壁面には、廉価で耐久性のあるガルバリウム鋼板を採用します。
- 庇下の外壁面は湿式外断熱工法とし、手触り感のある風合いを活かします。
- 周囲の山並みに呼応したシルエットをつくり、まちの中心部においても佐呂間の自然が感じられる親しみのある外観とします。



断面計画

□佐呂間の気候風土にふさわしいエコ庁舎

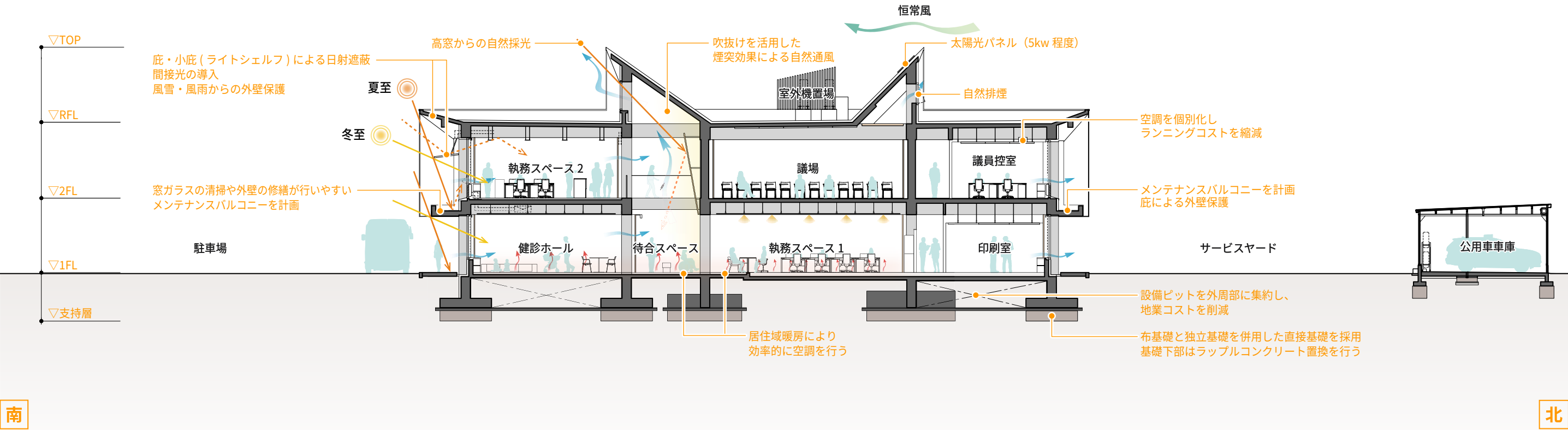
- 佐呂間の気候特性を活かし、消費エネルギーの小さい庁舎をつくります。
- 建設、運用、更新の各コストをバランスよく削減することで、トータルにかかるライフサイクルコストを縮減し、持続可能な建築とします。
- 24 時間開放エリアの運用に太陽光発電を取り入れ、環境負荷低減を効果的に推進します。

□建築計画による省エネ化（パッシブ手法）

- 外壁や屋根は外断熱工法とし、高気密高断熱を徹底します。開口部をできるだけ小さくして空調負荷を削減します。
- 南面の庇により夏季の直達光を遮蔽し、冷房負荷を削減します。
- 高窓から自然光を導き照明負荷を削減するとともに、日射蓄熱効果により冬季の暖房負荷低減を図ります。
- 吹抜けを利用した温度差換気＋恒常風による誘引効果で自然換気を促し、快適かつ衛生的な室内環境を保ちます。

□設備計画による省エネ化（アクティブ手法）

- 外周部の小部屋は個別制御可能で高効率の寒冷地用空冷ヒートポンプエアコンを採用します。
- 外気の影響を受けにくい内部の執務スペースは、床下から暖気を放出する簡易床暖房とし、温度差の小さい快適な居住域空調とします。
- 一時避難場所となる待合スペース及び健診ホールには、油炊きボイラーによる温水床暖房を採用します。非常用発電機の熱源にもなる油を定期的にご利用することで燃料劣化を防止します。



■断面計画 (S=1/200)

□内装計画の基本方針

- 構造躯体であるコンクリートを現しとしたデザインとし、柱梁によるシンプルな構成とします。
- 木材をふんだんに活用し、温かみのある室内空間とします。

□町民開放エリア

- 1階の床材はフローリングを採用します。2階には飲食による汚れや吸音性確保のためタイルカーペットを採用します。
- 吹抜け部は高窓からの採光を効果的に取り入れる反射板を設け、環境に配慮したデザインとします。

□執務スペース

- 各階の執務スペースはOAフロアとし、レイアウト変更にも対応可能な柔軟性を確保します。また、足音などの反響を防ぐため、床材にはタイルカーペットを採用します。

□議場

- 多目的利用が可能な議場は利便性と親しみやすさを兼ねた内装とします。
- 試写会やミニコンサートなどにも対応可能な防音、吸音性能を確保します。

□トイレ、給湯室などの水回り

- 水を使用する室の床や壁には、耐水性のある素材を選定します。
- 防汚性や抗菌性が付加された素材の採用も検討し、高耐久化を図ります。



■1階待合スペースの内装イメージ



■2階執務スペースの内装イメージ



■2階サロマサロンの内装イメージ

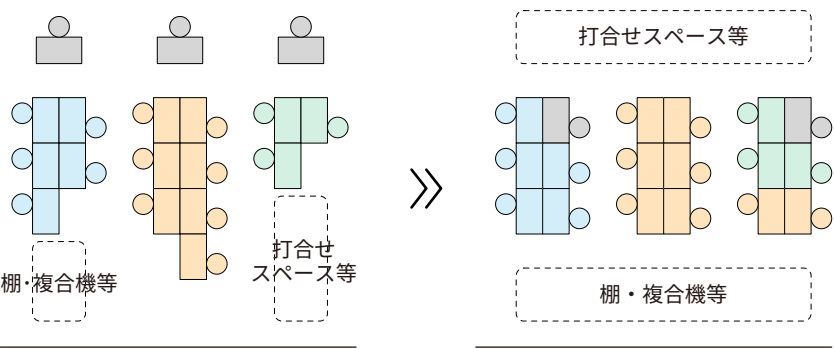
執務スペース計画

□執務スペースの基本方針

- ・ 町民利用窓口を 1 階に集約し、各種手続きがワンフロアで簡潔するワンフロアサービスを基本とします。
- ・ 1,2 階の執務スペースはフロアごとに 1 ヶ所にまとめ、職員専用階段でつなぐことで職員同士の連携や執務効率を向上させます。

□オフィスレイアウトの考え方

- ・ 待合エリア、執務エリア、サポートエリアを層状に並べ、職員の横動線を明確化することで部署間の迅速な連携を可能とします。
- ・ ユニバーサルレイアウトを導入することで、無駄なスペースを削減することで、コンパクトで効率的な執務環境を整備します。



通常の島状レイアウト ユニバーサルレイアウト
■ユニバーサルレイアウトの概念図

□多様な働き方を促すサポートスペース

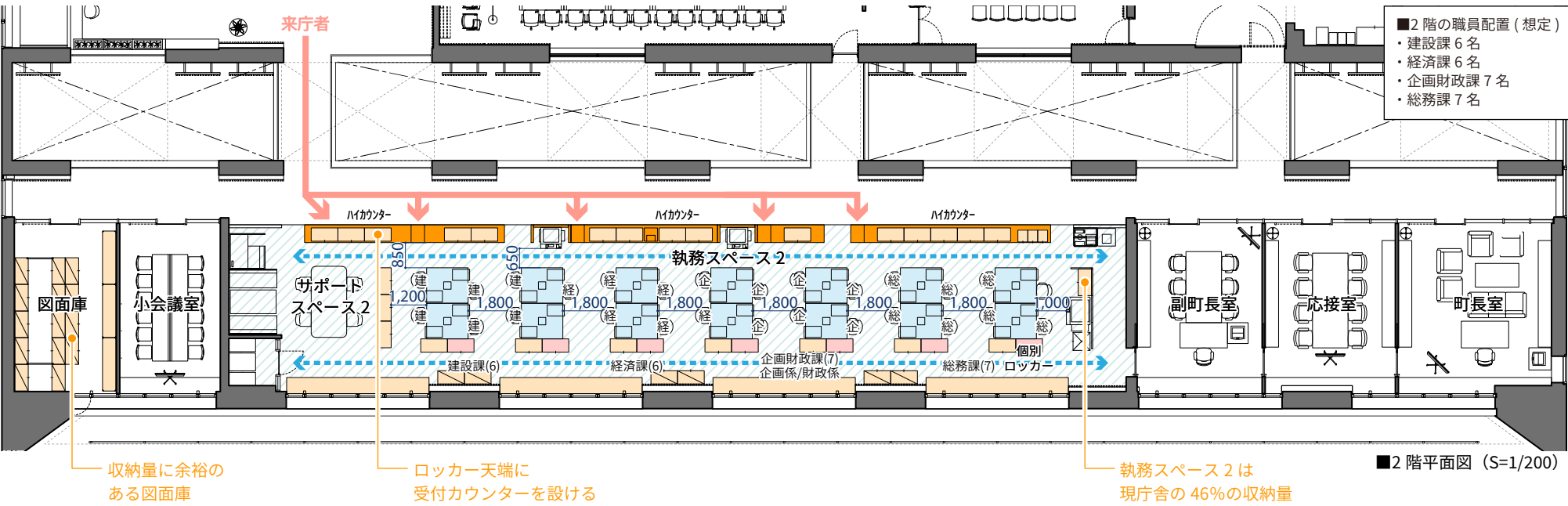
- ・ web 会議や打合せ、集団作業から個人ワークまで、さまざまな実務に対応できる環境を整備します。
- ・ 職員専用トイレの整備や個人ロッカーの運用など、職員にとって働きやすい設備を整えます。
- ・ 将来的な電子化、フリーアドレス化を見据え、ハードソフト両面で柔軟な計画が可能となります。

□収納量の考え方

- ・ 執務スペース内の収納には電子化できない書類の一時保管や共有書籍などを収納し、書類量の削減を図ります。

新庁舎室名	①現庁舎FM数	②新庁舎のFM数	文書削減割合 (②÷① [%])
1階 執務スペース1	511.87	351.90	69%
1階 書庫1			
2階 執務スペース2	203.43	94.00	46%
2階 書庫2	1,603.04	691.20	43%
2階 図面庫	87.65	107.10	122%

■新庁舎の FM（ファイルメーター）数と文書削減目標（実施設計時点）



- ユニバーサルデザイン計画の基本方針
- 年齢や性別、障がいの有無や国籍によらず、すべての人に対して安全でわかりやすく利用しやすい庁舎とします。

- わかりやすい階構成
- 1階に町民の利用率の高い機能をまとめます。
 - 議会機能は2階にまとめ、利用者動線を明快にします。
 - 来庁者が視認しやすい位置に窓口、執務スペース、エレベーター、階段を設け、吹抜けを介して各階のつながりを確保します。

- ゆとりがあり明快な動線計画
- 1階は幅広い直線状の待合スペースを町民の主動線とし、建物東西に設けた出入口をつなぎ合わせます。
 - 2階はループ状動線とし、行き止まりのない明快な動線計画とします。
 - 2方向避難を確保するため東西にバランスよく階段を配置します。西側の階段は町民利用階段とし、利便性に配慮します。

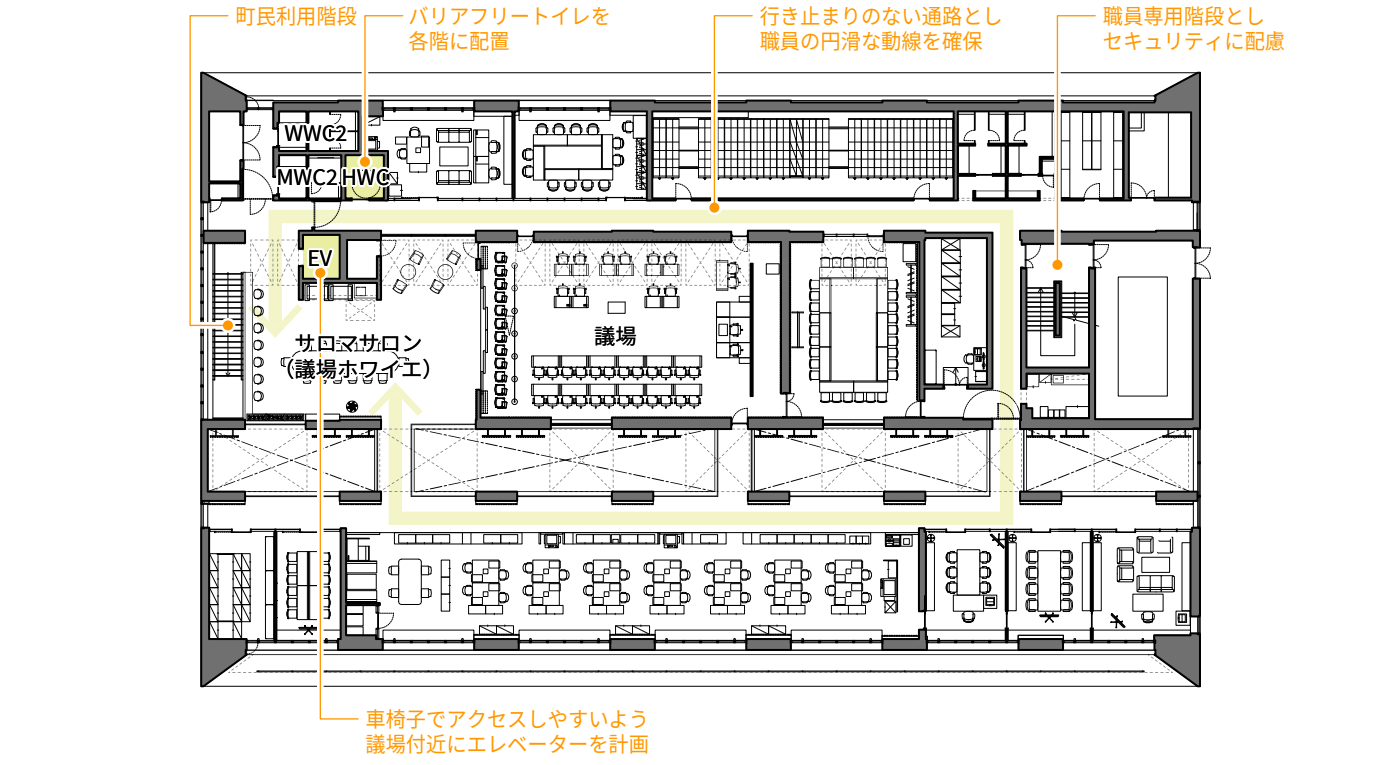
- 来庁しやすい底下空間
- 西側にはエントランス庇を設け、雨風をしのぎながら建物へアクセス可能な計画とします。
 - 建物南北には庇を設け、バスの待合や隣接建物へのアプローチ空間として活用できます。

- 車いす利用を前提とした計画
- 共用部をはじめ執務スペースにおいても車いすの通行に支障のない動線寸法を確保します。
 - 議場は平土間とするほか、建物内部には段差を設けず滑りにくい床仕上げに配慮します。
 - エントランス庇に近接して思いやり駐車場を設けます。

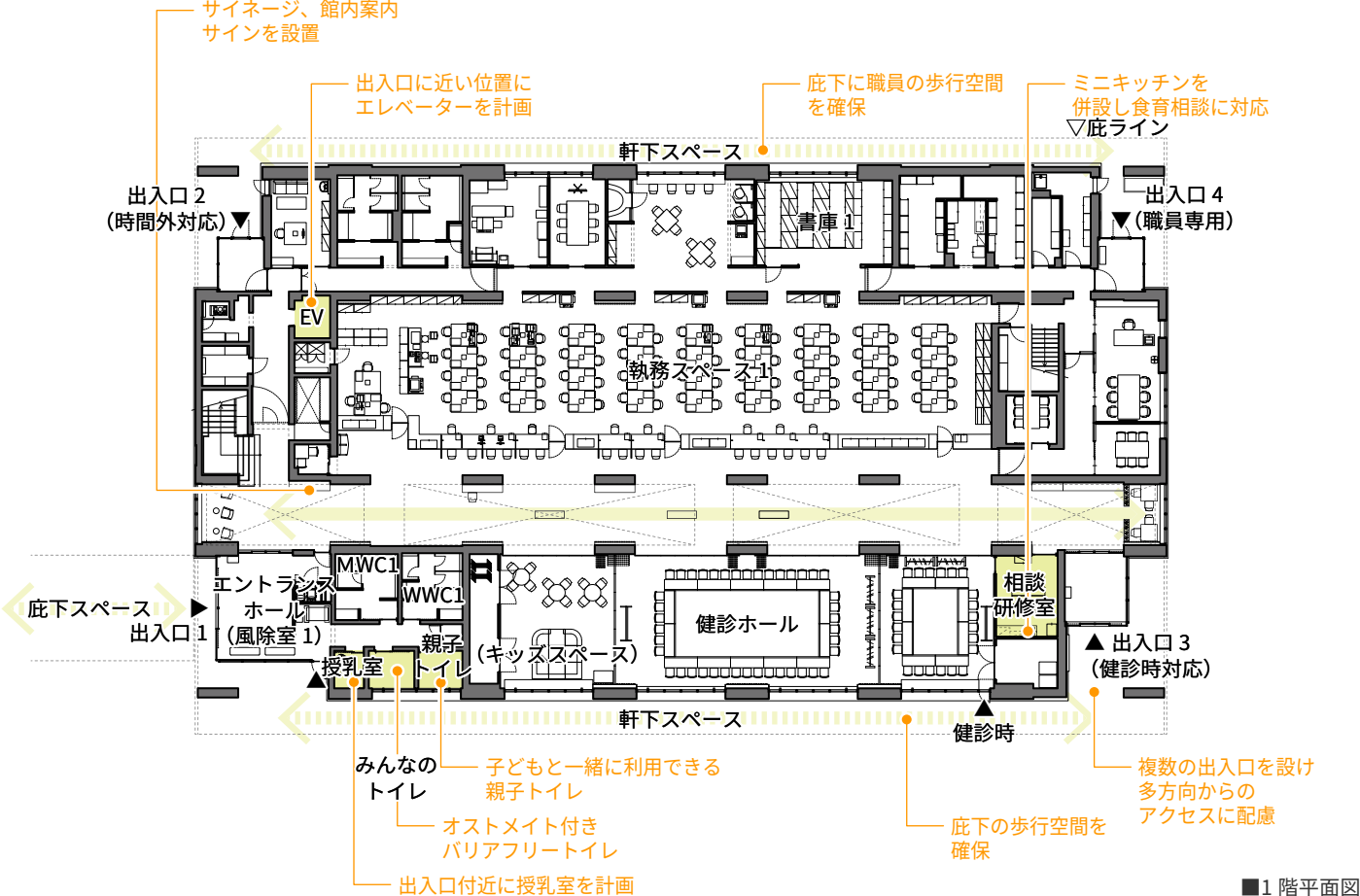
- わかりやすいサイン計画
- 庁舎全体のレイアウトは直観的にわかりやすい色彩や大きさ、デザインに配慮します。
 - 大きな文字やピクトグラム、視認性の高い色彩、点字、外国語表記など誰もがわかりやすい計画とします。

- エレベーター
- メインのエントランスから視認できる位置にエレベーターを設置します。
 - 11人乗りを想定し、点字表記や音声案内の設置を検討します。

- 誰もが利用しやすいトイレ
- 1階には24時間開放トイレを設け、誰もがいつでも利用可能な計画とします。
 - オストメイト付きのみんなのトイレ、子ども連れの利用者に配慮した親子トイレのほか、近接して授乳室を設置し、役場利用に限らずすべての人が気軽に利用できる計画とします。



■2階平面図



■1階平面図

町民開放エリア計画

町民開放エリア

- 1 階エントランスホールはバス待合機能を兼ねた、24 時間開放エリアとして計画します。
- 健診ホールは、健診時以外は移動間仕切りにより 3 室に分割可能なつくりとします。通常時は待合スペースと一体的に利用し、待合機能のほかにも町民作品の展示スペースとして活用できる計画とします。

町民ワークショップで提案されたアイデア



放課後のたまり場のイメージ



カフェのような図書空間のイメージ



児童図書コーナーのイメージ



開放的な待合スペースのイメージ



エントランスホールでのイベント開催のイメージ

サロマサロン

- 共用スペースに個室でゆっくりできる場所がほしい
- 勉強、読書、ipad で映画などいろいろできる
- 宿題したり、映像を見たりするところ
- 友だちとお勉強会する

カフェスペース

- 常設でなくても臨時カフェのような形で飲食スペースがあると良い
- お茶が飲める
- カウンターや囲われたところなど場所を選べる

図書コーナー

- いろんな本が読みたい
- バスを待っている間読書や勉強ができるように
- 雑誌コーナーの設置

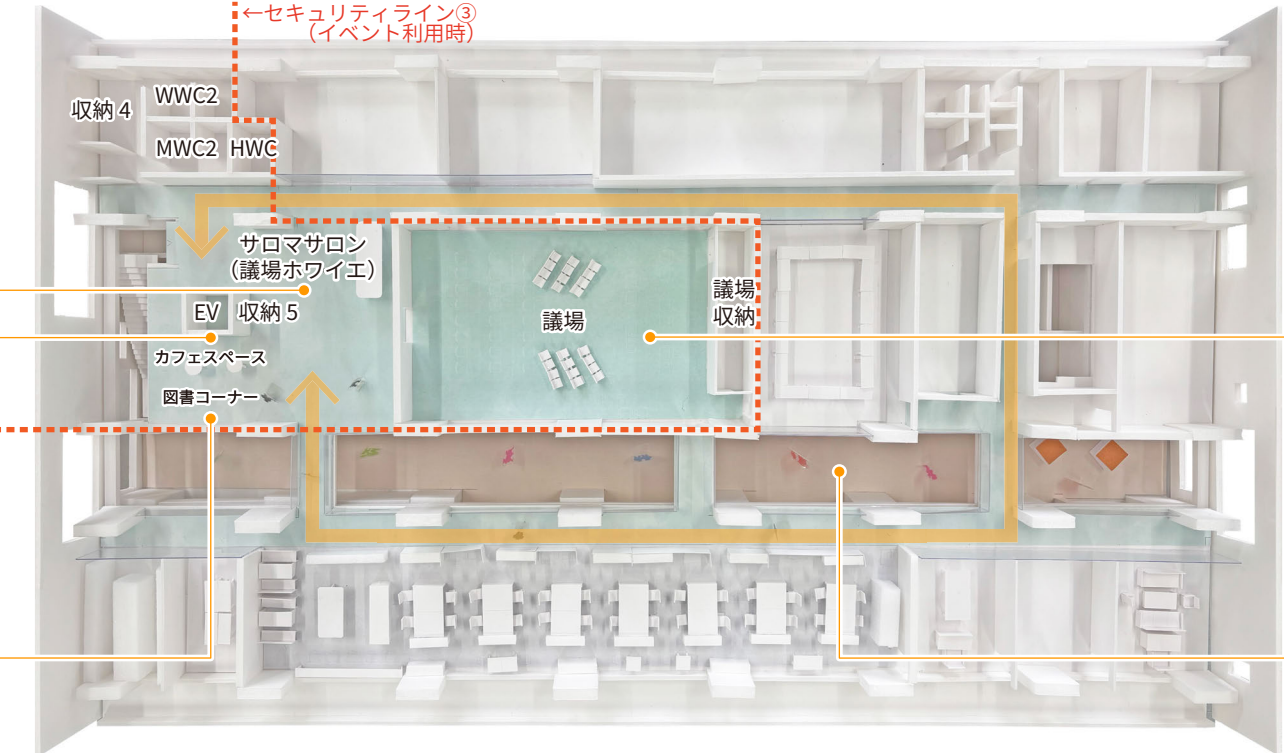
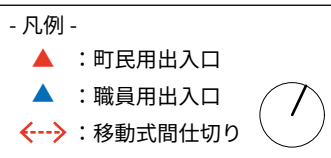
待合スペース、エントランスホール

- 手続きなどで来庁する者が気兼ねなくゆっくり過ごせるスペースがあると良い
- 町内外のイベント情報など掲示板がある
- バスの待合にもなるようなのでコミュニティの場としたい

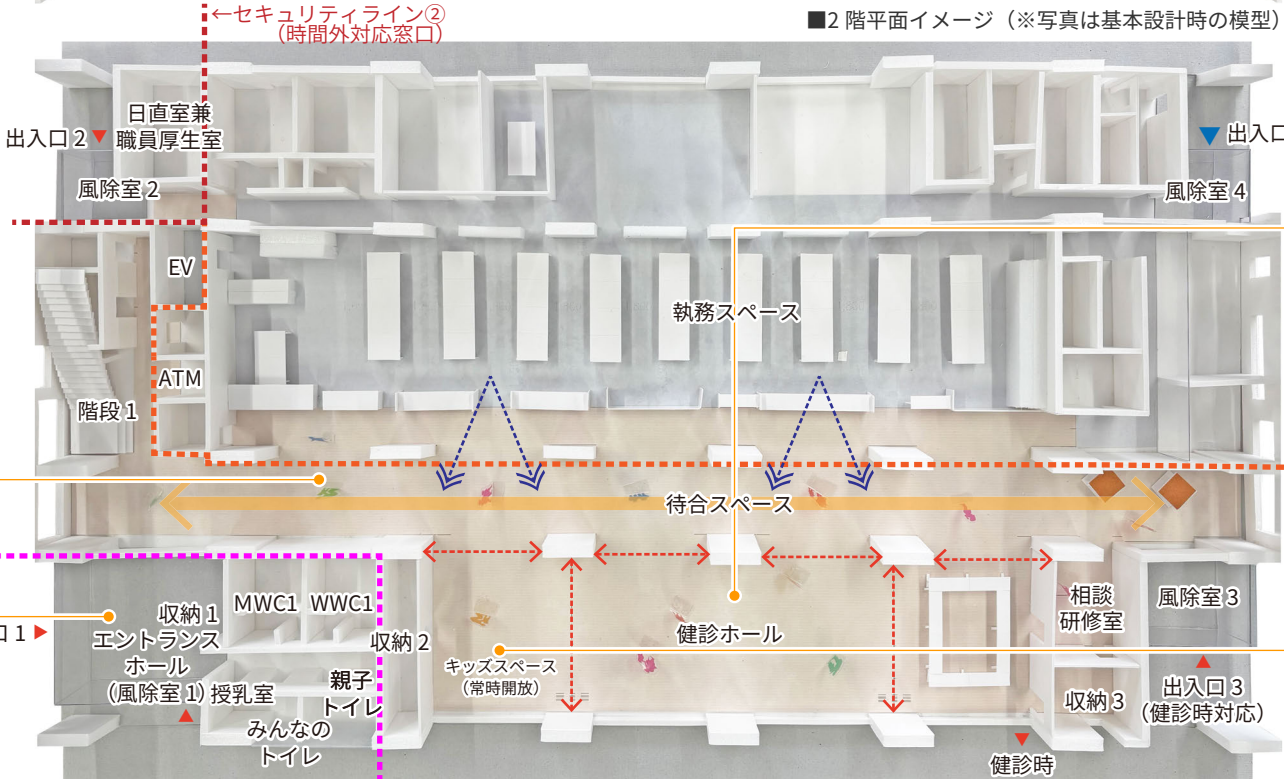
- 眺望の良い 2 階サロマサロンはカフェスペースや図書コーナーを設け、軽飲食を楽しめる落ち着いた空間とします。
- 議場は音楽イベントや試写会など、多目的に利用できる計画とします。
- 全館に公衆 WiFi を整備し、さまざまな活用方法に柔軟に対応できる計画とします。

開放エリアに応じた段階的なセキュリティ計画

- 1 階のエントランスホールと町民トイレは 24 時間開放とし、休日や平日夜間はセキュリティライン①で機械警備により入退室を管理します。
- 時間外（土日祝 9:00-17:00）対応は職員が日直室で応対し、セキュリティライン②で入退室を管理します。
- 総合健診や各種イベント利用時は、原則職員が機械警備を解除し、セキュリティライン③で入退室を管理します。



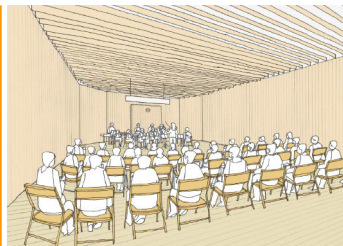
2 階平面イメージ（※写真は基本設計時の模型）



1 階平面イメージ（※写真は基本設計時の模型）

議場

- 音楽イベントの開催
- ミニコンサートの開催
- ミニコンサートのなちょっとした演奏会ができるスペースとしての活用をする
- 議場を映画館に
- パブリックビューイング



音楽コンサート開催のイメージ

吹抜け、展示空間

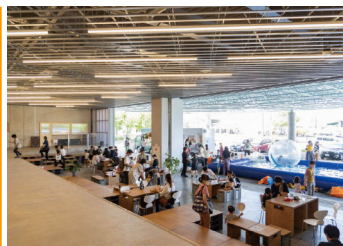
- 吹抜けを生かした仕掛けづくり
- 子どもたちの作品を展示
- 高校生たちの写真展、アート展ができる
- 老人クラブの展示スペース
- いろんな人が来る役場で展示ができる
- 美術スペース、佐呂間町の芸術家の作品展示



吹抜け空間を利用したアート作品のイメージ

健診ホール

- 健康維持増進を意識させるスペース
- 子どもたちと高齢者の方たちが交流できる場所



一体で室を利用している健診ホールのイメージ

キッズスペース

- 小さな子どもたちが安心して遊べる空間
- キッズスペース
- 子どもたちがワイワイ走り回れる



キッズスペースのイメージ

災害時対応計画

災害時対応計画の基本方針

- 新庁舎は災害発生時において災害指揮及び復旧支援を行う災害対策本部となります。
- 避難者を一時的に受け入れる一時避難場所として、町民にとっての拠り所となります。
- 隣接するコミュニティセンターと連携を図り、円滑な災害復旧が可能な計画とします。

フロアごとの明快な役割分担

- 1 階は町民の一時避難場所及びボランティア本部、2 階は災害対策本部となり、フロアに応じて迅速な機能転換を可能とします。
- 議場は一時避難場所となるほか、状況に応じて関係者控室など柔軟な対応が可能な計画とします。
- 東側の階段を職員専用とすることで内外及び 1,2 階の迅速な連携が可能な計画とします。

機能維持・継続を可能とするインフラ設備

- 電力が遮断されても災害対策本部として 72 時間機能維持できる計画とします。
- 自家発電設備の備蓄燃料は 3 日分とし、節電モードにより 7 日以上連続運転を可能とします。
- 町民や職員が利用するトイレを一部災害時用とします。雑用水はピット内雑用水槽より供給し、直下に汚水槽を設けて災害復旧時の管理清掃にも配慮します。
- 照明や空調は消費電力最小モード設定とし、かつ高効率機器を選定します。備蓄庫を庁舎内に設け、災害物資の不足が生じない計画とします。

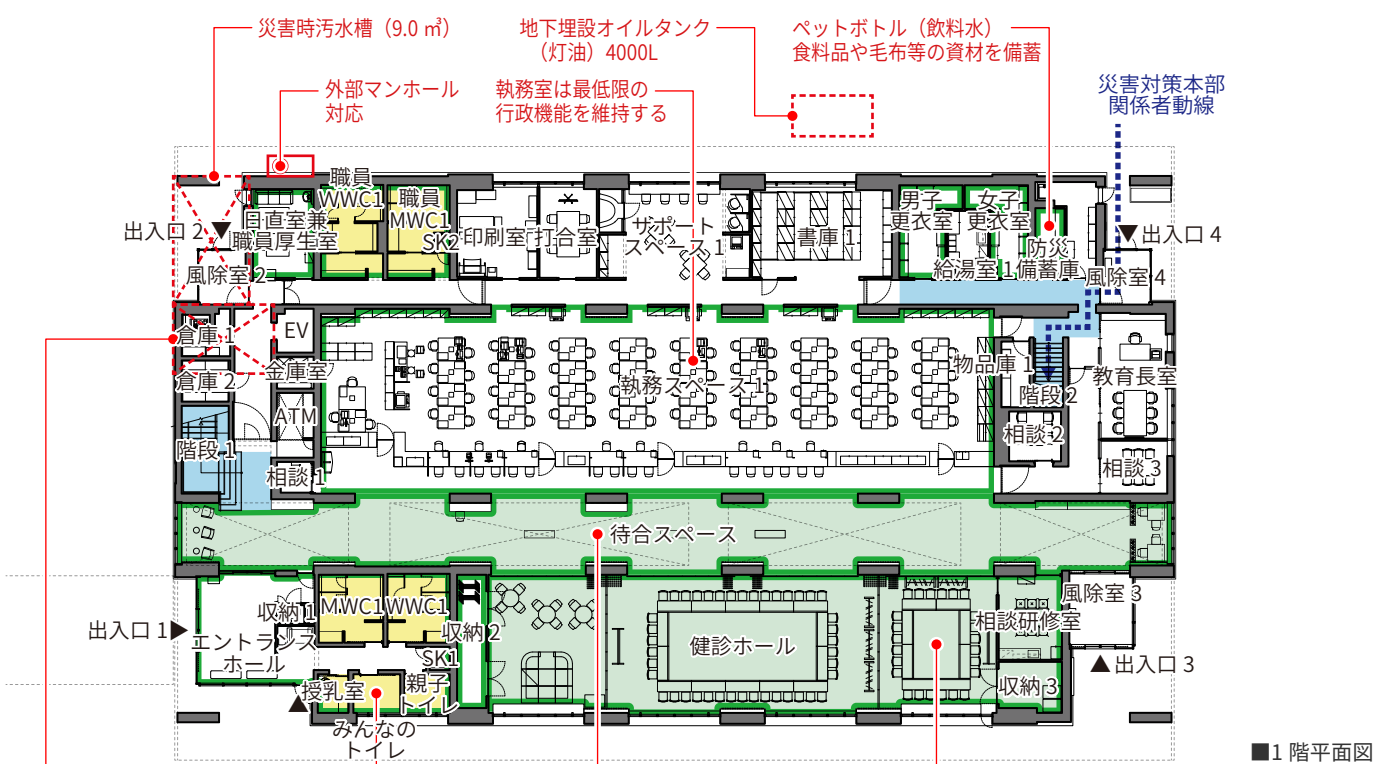
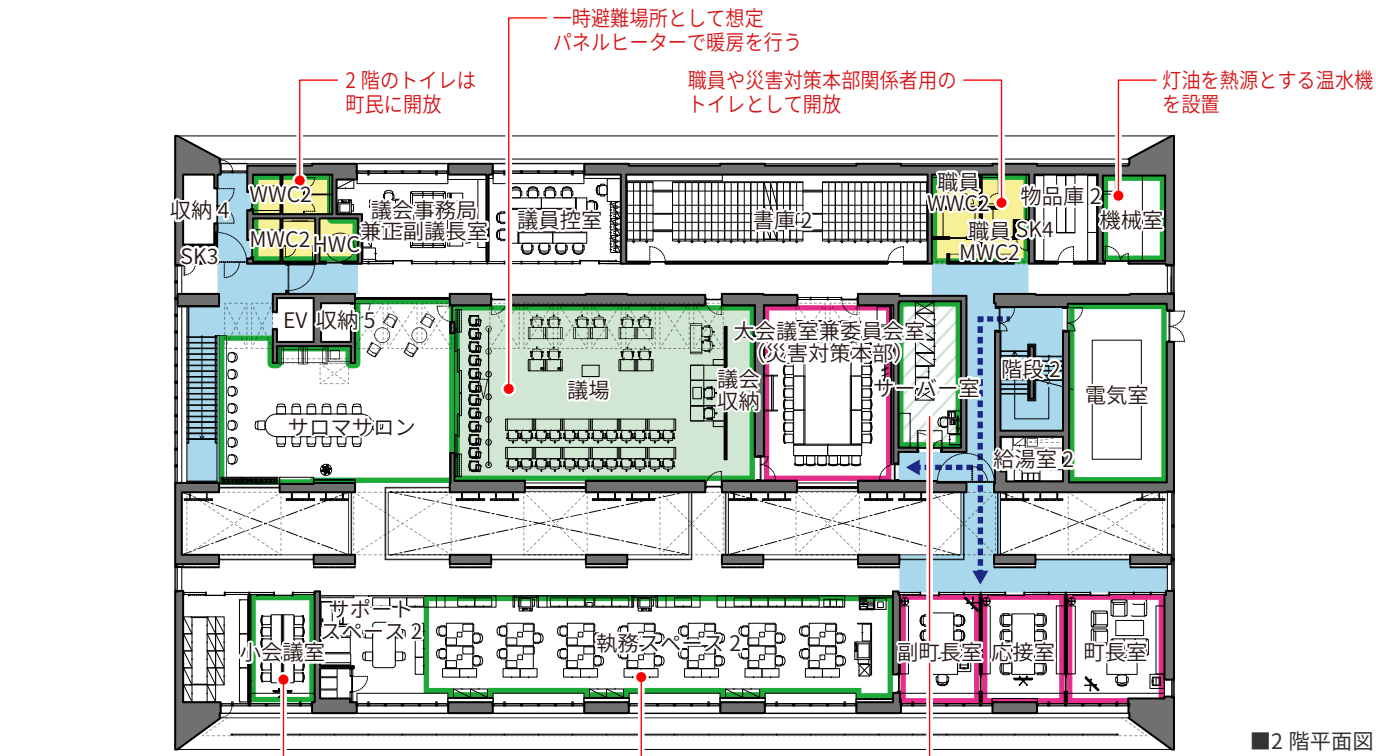
災害時設備対応表

	平常時	災害時	備考
電気	北海道電力	非常用発電機により供給	非常用発電機(燃料:灯油)により供給 燃料備蓄容量は72時間とする
給水	飲用水:町上水道より直圧給水	飲用水:備蓄ペットボトル供給	飲用水貯水容量:一人当たり3L×3日分×職員数 :一人当たり3L×1日分×一時避難収容人数
	雑用水:町上水道より直圧給水	雑用水:雑用水槽から供給	雑用水貯水容量:一人当たり30L×3日分×職員数 :一人当たり30L×1日分×一時避難収容人数
排水	町下水道へ放流	切り替え弁にて排水槽に放流	貯水容量は72時間とする 汚水は災害収束後衛生車にて回収・消毒
暖冷房	暖房:EHP、一部床暖(温水) パネルヒーター 冷房:EHP	暖房:EHP、一部床暖(温水) パネルヒーター 冷房:EHP	電気による運転(非常用発電機から供給) ※対応時間:1日分
熱源	灯油	非常用発電機	-

一時避難人員の算定

- 佐呂間町地域防災計画（資料編）より 3.3 ㎡ / 人を算定基準とします。
- 健診ホール 203 ㎡ ÷ 3.3 ㎡ / 人 ≒ 61 人
- 議場 140 ㎡ ÷ 3.3 ㎡ / 人 ≒ 42 人
- 新庁舎における一時避難の収容人数は 61 人 + 42 人 = 103 人と想定します。

(参考：佐呂間コミュニティセンター 521 ㎡、収容人数 157 人)



非常用発電機対応室凡例

照明	: 通常時同様に利用可能	共用部照明	(移動に支障ない照度を確保)
コンセント	: 通常時同様に利用可能	暖房可能室	
照明	: 移動等に支障ない照度を確保	利用可能トイレ	
コンセント	: 通常時の 30% 利用可能	冷房可能室	

※特定の差し込み口に災害時利用可能表記

□既存樹木を活用した植栽計画

- 既存あかまつを次世代へと受け継ぐために、適切な剪定をした上でシンボリックに保存します。
- 南面に開かれた駐車場を囲うように低木～地被植物を植え、歩行者目線で緑を感じるエリアとします。



■イチイとシンバク（既存）
庁舎のアプローチ空間にふさわしい広々とした芝生面の庭。既存木のイチイとシンバクは残置します。



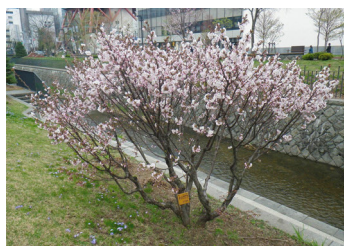
■アカマツ（既存）
風格のある老大木でシンボリックな存在のあかまつは保存します。周囲の既存イチイ・ツツジ類は移植し、緩やかな盛土の上に植栽します。



■芝生



■オオバボダイジュ



■チシマザクラ



■ヤマモミジ



■カツラ

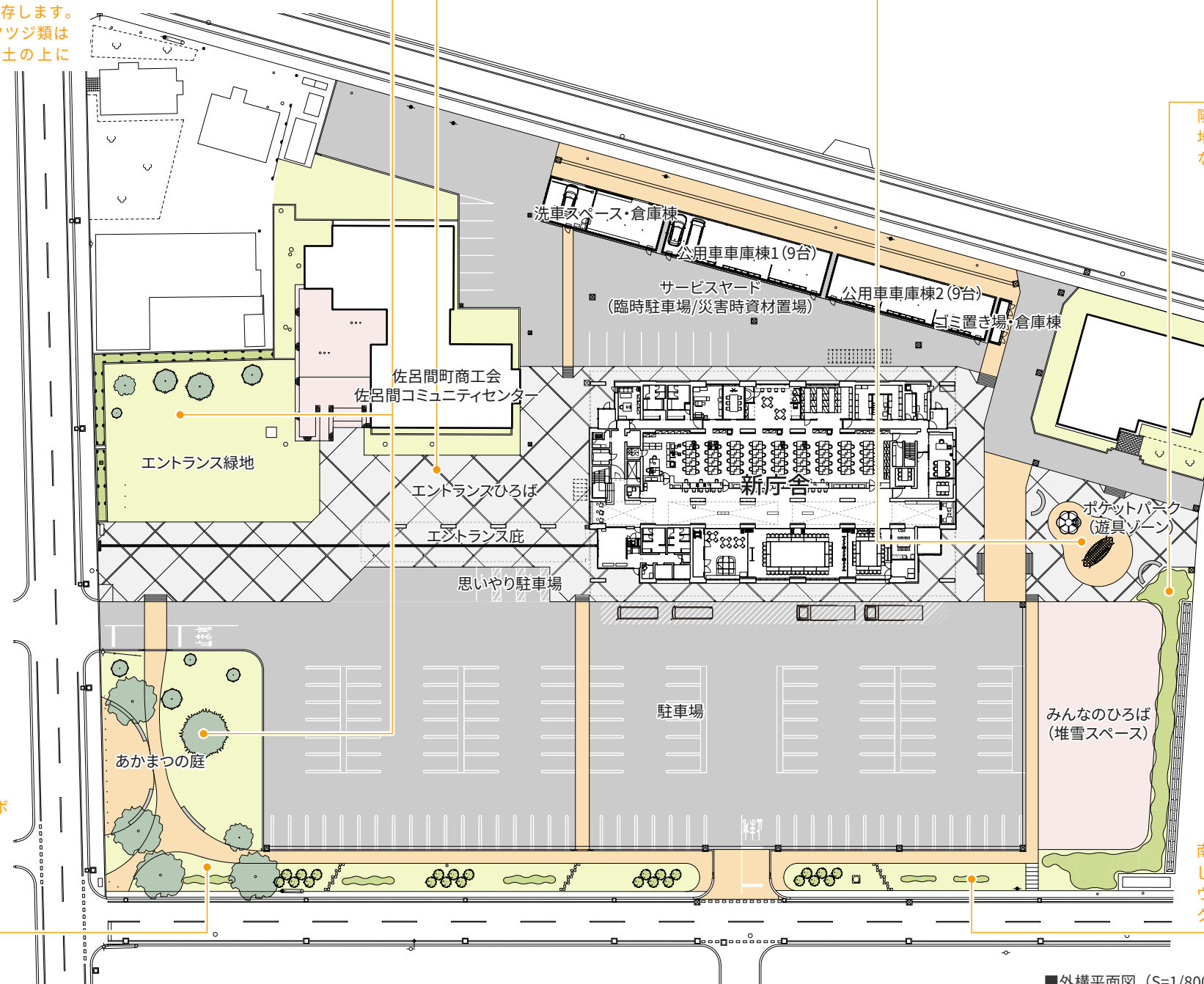
新植木として町木オオバボダイジュやチシマザクラ、紅葉の美しいヤマモミジ、カツラを植栽します。
※芝生：年に4-5回の芝刈りを行う

□まちのシンボルとなり誇りに思える場づくり

- 既存樹木や要素を生かしながら、ワクワクする新しい場を計画します。
- 四季や時間に応じて、さまざまな使い方ができる広場をつくります。
- 周辺施設と豊かにつながる関係をつくり、まちに賑わいを創出します。
- まち全体の環境や景観のモデルとなる空間づくりを目指します。



■ホタテ貝殻樹脂舗装



□周辺施設とつながる動線計画

- 敷地中央部にストライプ状のコンクリート舗装を東西に貫通させ、不整形な敷地に対して骨格となる軸をつくります。
- 骨格から枝分かれするように周辺施設へと動線を伸ばします。
- 歩車分離を徹底し、他施設のアプローチ空間も改善する計画とします。



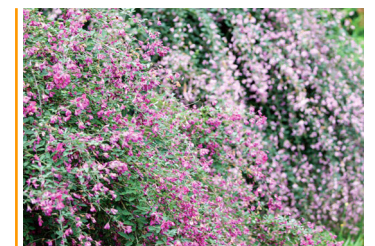
■ポケットパークの遊具



隣の民地との間を仕切る緑地―地被植物は管理の手間がかからないコクマザサとします。



■コクマザサ



■ミヤギノハギ



■ヒメウツギ



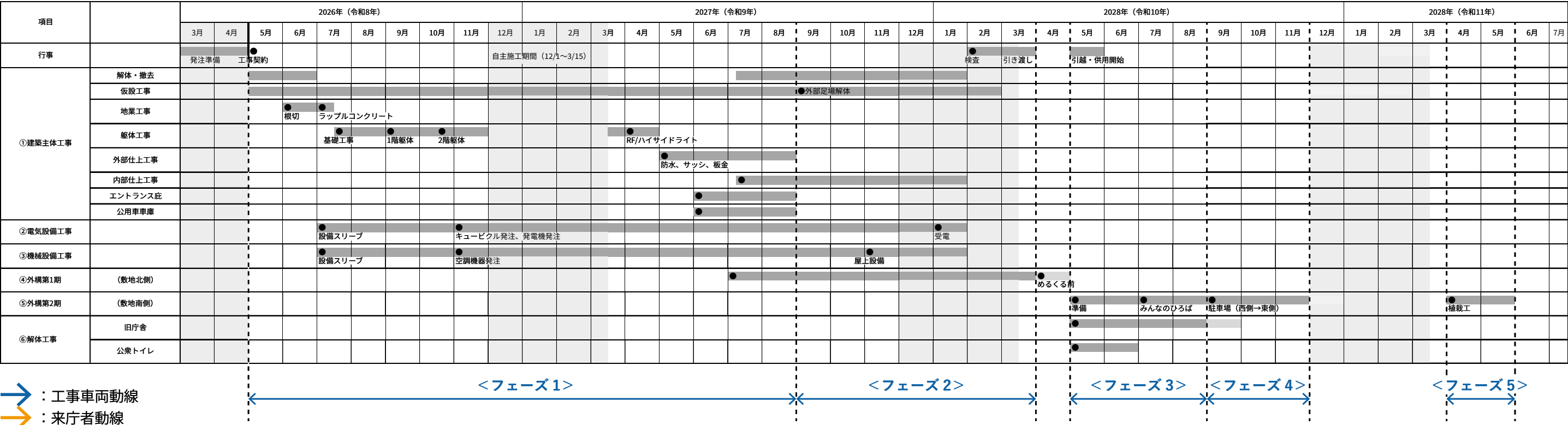
■ホワイトクローバー

南側の外周には、足元は管理がしやすいミヤギノハギや、ヒメウツギ等の低木とホワイトクローバーを植栽します。

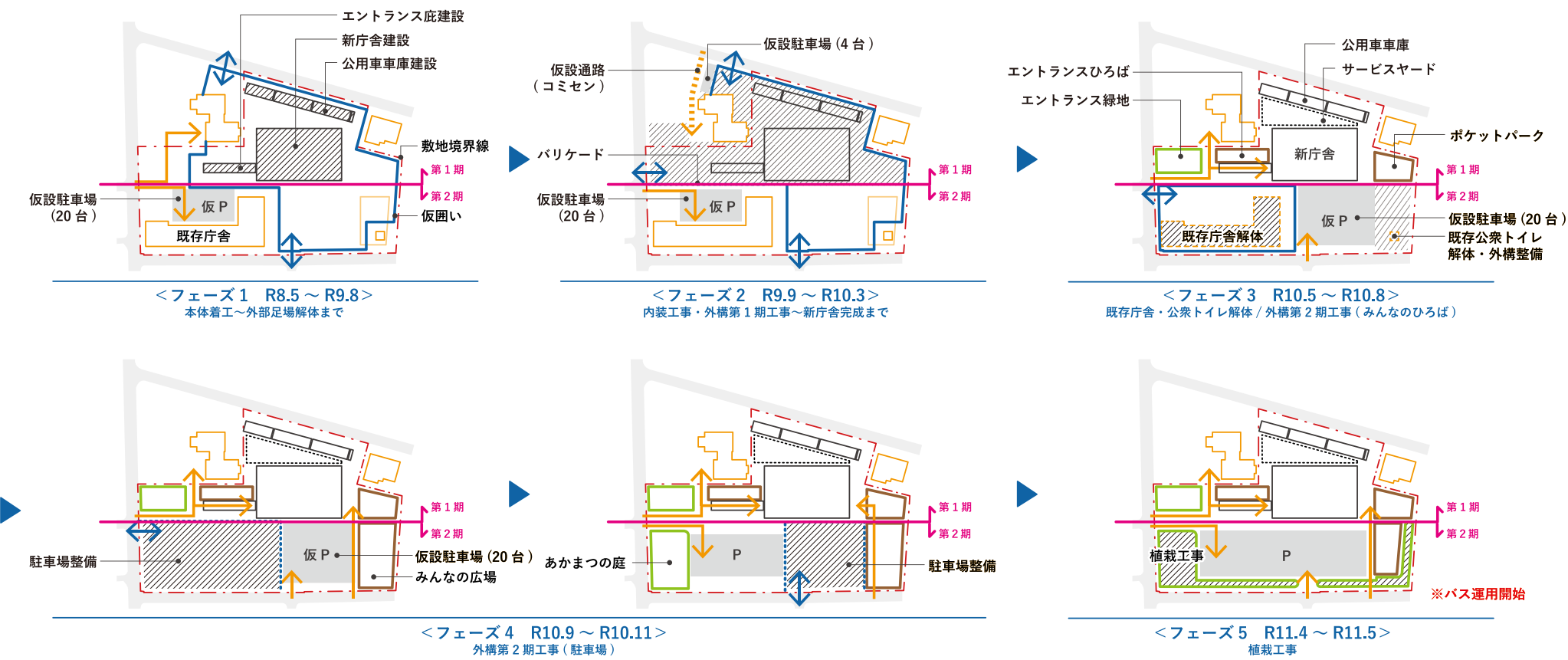
■外構平面図 (S=1/800)

事業計画・工事工程表

□全体工事工程表
・佐呂間町新庁舎建設工事



□全体工事フェーズ



□積算工事費

・以下に主要な工事の実施設計時点（2025年12月）の工事費を示します。

工事項目		発注年度	金額(円)
① 新庁舎建設工事(建築主体)	R8	R8	2,313,506,928
② 新庁舎建設工事(電気設備)			
③ 新庁舎建設工事(機械設備)			
④ 新庁舎外構工事(1期)	R9	R9	160,443,800
⑤ 新庁舎外構工事(2期)	R10	R10	168,984,200
⑥ 現庁舎解体工事	R10	R10	184,930,900
計			2,827,865,828



■既存アカマツと新庁舎の南西側の外観イメージ



■温かみのある開放的な待合スペースのイメージ